



益田市石見神楽神和会
まずだしいわみかぐらしんわかい

出演

尾上菊之丞
おのえきくのじょう
日本舞踊
尾上流四代家元

竹本織太夫
たけもとおりたゆう
人形浄瑠璃文楽
太夫

吉井盛悟
よしいしやうご
日本音楽
作曲、演奏家

みたまかぐら

魂神楽

岩戸・大蛇

令和4年

3月27日
[日]

[1回目] 14時開演
開場は開演の30分前

[2回目] 18時開演

郷土と古典二つの伝統芸能が紡ぐ
ただ一会、魂の神遊び

石見神楽
いざ京都へ

先斗町歌舞練場

京都市中京区先斗町通三条下ル

全席指定 6,000円(税込)

主催：Masuda カグラボ京都公演実行委員会
共催：石見観光振興協議会、Masuda カグラボコンソーシアム
後援：益田市(鳥根県)、(一社)益田市観光協会
衣裳、協力：(株)井筒企画
運営協力：(一社)ベンチ

脚本.. 戸部和久
とべかずひさ
演出.. 吉井盛悟
よしいしやうご
揮毫.. 鈴木敏夫
すずきとしお



吉井盛悟



竹本織太夫



尾上菊之丞



公演情報

| プログラム |

[一 部]

修 祓

序 幕 荒御魂 あらみたま
第一場 須佐之男 すさのお
第二場 天照 あまてらす

二幕目 天の岩戸 あまのいわと

- 中入り (休憩) -

[二 部]

大 詰 八岐大蛇 やまたのおろち
第一場 大蛇退治 おろちたいじ
第二場 和御魂 にぎみたま

終 幕



| 出演者 |

益田市石見神楽神和会…神田惟佑、島田祐司、栗栖史生、浜崎元気、上角正憲、田原英治、糸賀毅樹、澄川学、曾我智也、松崎祥吾、原亮太、永井佑樹、宮川侑也、三原紫輝、塩満元気、三原新、小室光樹、榎並愛斗、内橋正人

尾上菊之丞

竹本織太夫

吉井盛悟

| スタッフ |

演出・振付：吉井盛悟／脚本：戸部和久／揮毫：鈴木敏夫／装束・衣裳：(株)井筒企画
美術（大道具）：田原英治／照明：角本豊、岡田憲章／音響：永見勇大／舞台監督：齋藤雅寛
振付助手：神田惟佑／映像収録：大武英樹、後藤義明／制作デスク：仲田千恵理
制作：戸部和久、藤原政志、檜垣賢一、星野七海、當銘瀬奈／運営：藤井さゆり
プロデュース：中村克也、島田祐司、神田惟佑／制作統括：神田惟佑／パンフレットデザイン：(株)益田工房
アーティスト・マネジメント：益田市石見神楽神和会、(有)尾上流事務所

| 主催・協力 |

主催：Masuda カグラボ京都公演実行委員会 / 共催：石見観光振興協議会、Masuda カグラボコンソーシアム
後援：益田市（島根県）、(一社) 益田市観光協会 / 衣裳、協力：(株)井筒企画 / 運営協力：(一社) ベンチ
企画：Masuda カグラボ



脚本
戸部和久

石見神楽には、以前から大変興味を持っておりましたが、なかなか直接触れる機会を得る事は出来ませんでした。昨年、吉井盛悟さんより、益田市の皆様の京都公演のお話を伺い、是非参加させて頂きたいと申しあげました。

それから、実際に石見に足を運び、『岩戸』と『大蛇』を拝見させて頂きました。日常生活と地続きの中から立ち上がる素朴さと力強さ、繰り返される奏楽のリズムの中で人の邪心がそぎ落とされ、しだいに無心。「神なるかな神なるかな無心に至る」。同じ芸能であっても生業として古典芸能の舞台を作っている私たちとは違う尊さを強く感じました。

そこで、今回は、現代の古典芸能に於いて様々な挑戦を続けておられる、尾上菊之丞さん、竹本織太夫さんにお声がけをさせて頂き、郷土芸能の飾らない美しさと、古典芸能の洗練された美しさの融合に挑戦出来ればと考えました。

『大蛇』は私の父、戸部銀作が復活した『日本振袖始』の題材であり、台本を作りながら復活されなかった大蛇退治に至るスサノオの高天原での場面を今作に織り込み、『岩戸』と『大蛇』を一つの作品としてまとめました。

今作は神と人の荒魂、和魂をテーマにしております。コロナ禍や戦争、目をそむけたくなる現実が押し寄せていますが、それに目を背けず、自分を見つめる事から祈りは始まり、願いは届くと信じております。そんな風に自分と世界を見つめて頂くきっかけになれば幸いです。



演出・振付
吉井盛悟

みなさま、こんにちは。吉井盛悟です。

この度、演出と言う身に余るお役目を頂き身が引き締まる思いがしております。さて、「神楽」と聞くと「日本固有の伝統的な芸能」を想像しがちですが、天岩戸開きや大蛇退治に類似する神話は世界に散りばめられています。

それは人々が抱える苦悩との向き合い方であり、心の不安を「闇」や「怪物」になぞらえ可視化することでネガティブティを乗り越える心をまとめ上げてきました。それが「まつり」であり、古来は「政：まつりごと」と表裏一体でありました。神楽とは人々の心を束ね、笑顔を求め前向きに生きることの指針とも言えると考えています。

時代の流れと共に日本の芸能は発展し枝別れしていきましたが、根底には心惹きと感興を求める心があり、それは善い平和を願うことが源流にあると思っています。今回の公演を通じ、世界の中での「日本芸能」の役割について今一度思いを巡らせてみたいと思っております。



出演
尾上菊之丞

この度、石見神楽の公演に参加させて頂く事となりました尾上菊之丞です。石見神楽は石見の地に根付き、愛され、地元の方々によって受け継がれてこられました。また、日本舞踊は日本の様々な芸能を取り入れながら、独自の身体表現として発展し、先人より受け継がれていく中で、その芸を磨いて参りました。アメノウズメの神遊びから始まったと言われる、日本の芸能に於いて、同じ先祖を持ちながら、日常の生活の中に息づく神楽と、非日常の舞台を生業とする我々とは、いつの間にか近くて遠い存在となっていたように思います。しかし、今こそ祈り、願い、舞い、踊るという人間の根源的な魂の躍動に立ち帰り、伝統芸能を見つめ直す時が来ているのではないかと考えております。神楽、日本舞踊、郷土、古典などの隣り合った高い垣根を取り払うことで、伝統芸能は進化をしてゆくと思えますし、私自身、同じ舞台で、神楽の息づかいを肌で感じながら一つの作品を作る事で、自分の中でも新しい発見が生まれることをワクワクしますし、今回の公演を非常に楽しみにしております。



出演
竹本織太夫

皆様、ごきげんよろしゅうございます。

竹本織太夫です。

私は、かねてより石見神楽に興味ぶかく思っておりまして、今回の企画のお話を頂く以前にも面白く、楽しく拝見させて頂いて居りました。益田市の石見神楽の皆様と出演できますことは、私自身、とても楽しみにしております。

今回の『魂神楽』という作品は石見神楽の『岩戸』、『大蛇』を中心に据えております。『岩戸』は日本芸能の始まりと言われるアメノウズメの岩戸開き舞を題材。そして、『大蛇』に描かれる、スサノオの大蛇退治は戦後、文楽、歌舞伎で復活され、私にとって所縁の深い近松門左衛門作の『日本振袖始』にも描かれており、今回の公演とのご縁を感じております。

私は今回、語りでの出演となりますが、音楽家で演出も担当される吉井盛悟さんともご相談して、吉井さん、そして石見神楽の音楽と響き合う事が出来ればと思います。また、これまでも様々な舞台で共演をさせて頂きました、尾上菊之丞さんと新たな舞台で共演出来ることも楽しみでございます。

皆さんと楽しく、“神楽で遊ぼう”と思っております。皆様におかれましてもご無理のないように、遊びに来ていただければ幸いです。



後援・益田市長
山本浩章

益田市は、島根県（西部）石見地方に位置しています。日本遺産に登録された石見神楽は古くから人々に愛され続け、伝統を守りながら、時代とともに発展を続けてきた益田市を代表する伝統芸能です。

この魂神楽では石見神楽の新たな挑戦と更なる発展に期待しているところです。

益田市では、定期公演や行事等、年間を通して石見神楽を楽しんでいただけます。魂神楽をご堪能された後には、ぜひ益田市にお越しいただき本場の石見神楽をお楽しみください。



Masuda カグラボ
京都公演実行委員長
・出演
神田惟佑

この度、「Masuda カグラボ京都公演実行委員会」委員長を仰せつかっております神田惟佑でございます。

石見神楽は令和元年5月に「神々や鬼たちが躍動する神話の世界～石見地域で伝承される神楽～」として日本遺産の認定という大きな名誉を頂きました。

当実行委員会は石見神楽の保存と活用に向けて、将来ビジョンの計画と実行を行う民間団体「MASUDA カグラボ」を母体とし組織しており、将来ビジョンの一つである興行化のもとに『魂神楽』の企画・運営を行っております。

本公演の開催に際し、多くの方々のご尽力を賜り開催する運びとなりました事、大変有難く幸甚の至りであります。

また、この度の公演には尾上流家元 尾上菊之丞様をはじめとして人形浄瑠璃文楽太夫 竹本織太夫様、演出・出演 吉井盛悟様また脚本 戸部和久様、このそうそうたる方々と同じ舞台を踏める喜びと誇りを胸に、石見神楽の新たな可能性と創造を見出して行きたいと思っております。また、芸能の聖地でもある京都「先斗町歌舞練場」にて石見神楽を上演できます事身に余る光栄と存じます。石見神楽と古典芸能が織りなす新たな創造の舞台、是非ご覧いただければと思います。

神と獣の間に人間はいる

魂神楽

鈴木敏夫（スタジオジブリ）

| プログラム |

[一 部]

修 祓

- 序 幕 荒御魂 あらみたま
第一場 須佐之男 すさのお
第二場 天照 あまてらす

二幕目 天の岩戸 あまのいわと

- 中入り (休憩) -

[二 部]

- 大 詰 八岐大蛇 やまたのおろち
第一場 大蛇退治 おろちたいじ
第二場 和御魂 にぎみたま

終 幕



| 出演者 |

益田市石見神楽神和会…神田惟佑、島田祐司、栗栖史生、浜崎元気、上角正憲、田原英治、糸賀毅樹、澄川学、曾我智也、松崎祥吾、原亮太、永井佑樹、宮川侑也、三原紫輝、塩満元気、三原新、小室光樹、榎並愛斗、内橋正人

尾上菊之丞

竹本織太夫

吉井盛悟

| スタッフ |

演出・振付：吉井盛悟／脚本：戸部和久／揮毫：鈴木敏夫／装束・衣裳：(株)井筒企画

美術（大道具）：田原英治／照明：角本豊、岡田憲章／音響：永見勇大／舞台監督：齋藤雅寛

振付助手：神田惟佑／映像収録：大武英樹、後藤義明／制作デスク：仲田千恵理

制作：戸部和久、藤原政志、檜垣賢一、星野七海、當銘瀬奈／運営：藤井さゆり

プロデュース：中村克也、島田祐司、神田惟佑／制作統括：神田惟佑／パンフレットデザイン：(株)益田工房

アーティスト・マネジメント：益田市石見神楽神和会、(有)尾上流事務所

| 主催・協力 |

主催：Masuda カグラボ京都公演実行委員会 / 共催：石見観光振興協議会、Masuda カグラボコンソーシアム

後援：益田市（島根県）、(一社) 益田市観光協会 / 衣裳、協力：(株)井筒企画 / 運営協力：(一社) ベンチ

企画：Masuda カグラボ



後援・益田市長
山本浩章

益田市は、島根県（西部）石見地方に位置しています。日本遺産に登録された石見神楽は古くから人々に愛され続け、伝統を守りながら、時代とともに発展を続けてきた益田市を代表する伝統芸能です。

この魂神楽では石見神楽の新たな挑戦と更なる発展に期待しているところです。

益田市では、定期公演や行事等、年間を通して石見神楽を楽しんでいただけます。魂神楽をご堪能された後には、ぜひ益田市にお越しいただき本場の石見神楽をお楽しみください。



Masuda カグラボ
京都公演実行委員長

・出演

神田惟佑

この度、「Masuda カグラボ京都公演実行委員会」委員長を仰せつかっております神田惟佑でございます。

石見神楽は令和元年5月に「神々や鬼たちが躍動する神話の世界～石見地域で伝承される神楽～」として日本遺産の認定という大きな名誉を頂きました。

当実行委員会は石見神楽の保存と活用に向けて、将来ビジョンの計画と実行を行う民間団体「MASUDA カグラボ」を母体とし組織しており、将来ビジョンの一つである興行化のもとに『魂神楽』の企画・運営を行っております。

本公演の開催に際し、多くの方々のご尽力を賜り開催する運びとなりました事、大変有難く幸甚の至りであります。

また、この度の公演には尾上流家元 尾上菊之丞様をはじめとして人形浄瑠璃文楽太夫 竹本織太夫様、演出・出演 吉井盛悟様また脚本 戸部和久様、このそうそうたる方々と同じ舞台を踏める喜びと誇りを胸に、石見神楽の新たな可能性と創造を見出して行きたいと思っております。また、芸能の聖地でもある京都「先斗町歌舞練場」にて石見神楽を上演できます事身に余る光栄と存じます。石見神楽と古典芸能が織りなす新たな創造の舞台、是非ご覧いただければと思います。